

- (ア) 直前に「何も見つけられなかったのか」とあることから考える。「さすが」とは、失望して元氣なく戻ってくる様子を表す。
- (イ) 直前に「僕は息を呑んだ」とある。「妹」も目の前で繰り広げられた光景に驚いたのである。
- (ウ) 「驚いた?」「夏からずっと……どうにか完成したみたいだ」という「万里夫」の言葉に着目する。ようやく完成させたトリックで二人を驚かせることができたので、満足しているのである。
- (エ) 直後に「もつと親しくしておけばよかった」とある。「僕」はこれほどの自分に腹を立てたのである。
- (オ) 直前の二人の会話に着目する。「友達なんていらぬ」と言った「万里夫」の言葉は「嘘」だったのである。
- (カ) ここでの「友達」は「僕」を指す。「万里夫」は「僕」と友達になれてうれしかったのである。「充分だ」と言い切っていることも押さえる。
- (キ) まず、「僕」が「万里夫」のどんな行動を見てこう思ったのかを前の部分からとらえる。「もう行かなくちゃ」と言った「万里夫」は、「さつき現れた木のほうへ、ゆっくりと歩きはじめた」とある。また、あとに続く部分で、「僕」が呼び止める声を無視して、木に近寄っていくもの、笑いながら戻ってきて「あそこで消えると思ったんだろう」と話している。これらから、「僕」が推測した内容を考える。「トリックを使い、いなくなる」など、「万里夫」がいなくなってしまうという内容が書けていればよい。
- (ク) 「万里夫」の声が「聞こえなかった」とは、「万里夫」の言葉を無視したということ。最後の一文の「……僕は歩きはじめた」にも着目する。
- (ケ) 雪の朝の情景描写や巧みな比喩が、作品のイメージをはっきりしたものにしていることに着目する。

解説

P12 2

解説

- (イ) 1 十年間で約二十三万頭から約三万八千頭に減っているが、十分の一以下にはなっていない。
 2 毎年三十万頭ずつ減っているわけではない。最も減少数が少ないのは、平成29年度から平成30年度で、約五千頭である。
 3 猫の殺処分数が十万頭になったのは六年後の平成25年度。
 空欄には、犬や猫の殺処分数が減少し続けている要因となる取り組み

P14 3

解説

- (ア) 1 かつおは平成27年から29年で、ほたてがいは平成27年から28年で減少している。
 3 まいわしは持続的に増加している。
 4 さば類の漁獲量が最も多いのは平成30年。
 (イ) 空欄には、日本の水産業の問題点をまとめた内容が入る。Cさんの「魚離れは漁獲量の減少による価格高騰の結果とも考えられます」という発言や、それを受けたDさんの発言「漁業就業者数の減少が漁獲量の減少に影響している」「今後の漁業を支える若者の割合が低い」に着目し、漁獲量と漁業就業者数の減少、漁業に就く若者の少なさという二つの内容をまとめる。

		(イ)										(ア)													
g	a	27	21	16	11	6	1	42	38	34	30	25	21	17	13	9	5	1	じんそく	2	ざんじ	3	らくのう	4	えいぎん
3	1	幸福	肥	度量	取捨	快方	余計	じゅんたく	ふうさ	かか	ねんしゅつ	がんちく	ぜっか	ちようい	なぐさ	しゃだん	きろ	6	れんか	7	とどこお	8	しゅんびん		
h	b	22	28	17	12	7	2	39	35	35	31	26	22	14	10	10	6	2	よいか	3	ざんじ	4	らくのう	5	えいぎん
3	3	食欲	拡張	屋外	賃貸	効	謝恩	もほう	せいさん	せいさん	ほんよう	おもむ	とうけつ	18	10	よいか	7	ざんじ	8	とどこお	9	らくのう	10	えいぎん	
c	4	29	23	18	13	8	3	40	36	36	27	23	23	15	11	よいか	7	ざんじ	8	とどこお	9	らくのう	10	えいぎん	
d	2	30	24	19	14	9	4	44	40	36	27	23	23	15	11	よいか	7	ざんじ	8	とどこお	9	らくのう	10	えいぎん	
e	2	再	臨	講	綿密	専属	特許	もてあそ	ようりつ	ようりつ	27	23	23	15	11	よいか	7	ざんじ	8	とどこお	9	らくのう	10	えいぎん	
f	3	清算	25	20	15	10	5	41	37	37	28	24	24	16	12	よいか	7	ざんじ	8	とどこお	9	らくのう	10	えいぎん	
		裏庭	26	縦断	敗北	責任	図	ぎようし	おこた	おこた	33	29	24	16	12	よいか	7	ざんじ	8	とどこお	9	らくのう	10	えいぎん	